

矢野本店

矢野本店(やのほんてん)

建築年:店蔵・明治初期、店舗・大正5年(1916)
(市指定重要文化財)

矢野本店は、享保2年(1717)、創業者である初代矢野久左衛門が近江国蒲生郡白野町から来往し、寛延2年(1749)二代自久左衛門が桐生新町二丁目自に店舗を構えたことに始まります。

清酒・味噌・醤油の醸造業のほか質商として家業を広げ、明治期以降は荒物・薬種・染料・呉服・太物・銘茶部門を扱うようになりました。

現在の店舗は大正5年に建築されました。出桁造で二階正面には格子戸が残り、商家(町屋)の構えとなっています。

※ 太物…和服用織物の呼称の一つ。絹織物に対して綿織物や麻織物を「太物」と呼んだ。



町屋・町家(まちや)

町にある家。特に商家。道に面して並ぶ、間口が狭くて奥行きが深いものが代表的。京の町家は袖壁を屋根より高くして小屋根をつけた卯建を備えたもの、江戸では厚い土壁を用いる土蔵造りが普及した。

「家とインテリアの用語がわかる辞典」(講談社)より引用

出桁造(だしげたづくり)

出桁造は、梁または腕木を側柱筋より外に突出して、その先端に桁を出した構造で、江戸時代以来一般的だった町家(店舗兼住宅)は、軒を深く前面に張り出した「出桁造」による立派な軒が商店の格を示していた。

「NPO法人 天橋作専組」ホームページより引用



出桁造

